

アカオビケラトリバチ

Larra amplipennis (F. Smith)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息確認地点数は減少した。県内ではもともと海岸や河川敷周辺での採集記録があったが、確実な生息地は非常に限られた地域のみになってしまった。生息基盤への圧力は増大していると考えられる。

種の特徴

体長 16～18 mm。黒色で、腹部第1～3節は赤褐色ないし暗赤色。ケラを麻酔して産卵し、孵化した幼虫はケラの体液を吸収して繭を作り、坑道内で育つ。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では大野市、勝山市、三里浜、越前市、敦賀市、美浜町、小浜市、高浜町で記録があった。今回、福井市、坂井市、あわら市で確認された。

生息を脅かす要因

海岸や河川敷の土地開発等が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、平嶋・森本 (2008)、環境省 (2015)、黒川 (2005)、野坂・黒川 (2003)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○	○					○	○	○		○	○	○

ニッポンハナダカバチ

Bembix niponica F. Smith
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では広く採集されてるが、砂地に営巣することから、海岸等が本種の主要な営巣環境であると考えられる。海岸は人為的な影響を受けやすく、存続基盤が安定しているとはいえない。全国的にも北海道、鳥取県等 10 以上の道県で減少が報告されている。

種の特徴

体長 20～23 mm。体は黒色で、黄白色の斑紋がある。上唇が長く突き出ているのが名前の由来。砂浜海岸、砂質の河川敷等に生息。幼虫の餌として、アブ類、ハナアブ類、ニクバエ類、キンバエ類、サンバエ類等のハエ目の成虫を狩る。

分 布

北海道～屋久島に分布。県内では、嶺北、嶺南の海岸、河川敷、湖畔で記録があり、今回の調査では、福井市や敦賀市、坂井市丸岡町で新たに記録された。

生息を脅かす要因

海岸開発、河川敷開発、湖畔開発等に伴い、本種の営巣が可能な良好な砂地が減少している。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、室田 (2006)、室田ら (2008a)、室田ら (2008b)、室田ら (2009a)、室田 (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○					○		○	○	○	○	○

ハクサンシリアゲ

Panorpa hakusanensis Miyake
シリアゲムシ目・シリアゲムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の生息地は三ノ峰避難小屋周辺の非常に狭い範囲に限られる。白山国立公園特別保護地区に指定され、厳重に保護されているものの、登山客の増加による植生への影響や、温暖化の進行による個体群の孤立化等も懸念され、生息基盤が安定しているとは言えない。

種の特徴

前翅長 15～17 mm。体は黒色。翅は透明で、黒い斑紋が発達する。本州の山岳地帯の高所に生息し、成虫は7、8月にみられる。

分 布

本州中部、関東、東北地方の山岳地帯高所 (1,500～2,700m) に分布。県内では 1995 年に三ノ峰避難小屋周辺でみつきり、今回も確認された。本県が分布の西限。

生息を脅かす要因

生息地は白山国立公園特別保護地区に指定され、厳重に環境が保全されているが、登山客の増加による植生の踏み付け等の影響が心配される。また、地球温暖化の進行による個体群の孤立化も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	